

水資源機構理事長賞（優秀賞）

水の大切さ

「水について」と言われたとき、真つ先にかんできたのは、祖母の話だ。

僕の祖母は香川県高松市に住んでいる。高松に帰省すると、いろいろな所へ連れて行ってもらいましたが、記憶に強く残っているのが「満濃池」だ。これがため池！とびつくりした思い出がある。

日本一大きなため池で、まるで海のように大きかった。香川県は、日本で最もため池が多い県だとそのとき知った。日本でいちばん狭い県で、讃岐山脈から瀬戸内海に流れる川は短く降水量も少ないので、昔から水を確保するために、ため池に頼ってきたのだそう。その香川県では、これまでに何度も渇水に悩まされてきたという。

昭和四十八年の空梅雨による真夏の渇水は「高松砂漠」と言われて語り継がれている。

その様子はというと、あまりの水不足に県外に避難する人たちもいたほどらしい。水道は断たれて、一日に三時間しか給水がなく、食堂では食器を洗えないので、紙容器を使ったりトイレはくみ置きバケツの水で流したりという生活が続いたそう。

そこで、四国でいちばん大きい河川、吉野川の水を香川県に引いてくる計画が推進され、早明浦ダムが建設され、香川用水によって送水されることになったのだと教えてもらった。

それ以降も何度か渇水がありテレビや新聞に早明浦ダムの貯水量〇〇パーセントと表示されているという。

僕の暮らす大阪府は？と思った。これまで渇水に悩まされた記憶は僕にはない。父にも確かめてみた。やはり、ないようである。

大阪は淀川という一級河川がある。水量も豊富で、それが大阪の給水源だ。インターネットや、本などで調べている時にテレビの特集で「琵琶湖の水とめたるか！」と滋賀県民が京都や大阪人に向かって捨て台詞

大阪府 四條畷学園中学校 二年 石谷 優翔

を言い放ったのだということがあったと知った。なぜ、こんな台詞が、飛び出したのであろうか。汚す一方の人間に怒りを爆発させたのだろうか。

調べてみると僕たち大阪人の生活に欠かすことのできない水道の水源は琵琶湖でその水は滋賀県を含め、瀬田川、淀川を通じて京都府、大阪府、兵庫県でも利用され、水道水では近畿約一四〇〇万人が利用する貴重な水資源となって僕たちの生活や都市活動を支えてくれているのだ。どれだけの人間がこのことを感じているのだろうか。

僕は、僕たちの使う「水」が琵琶湖に頼っていることがよく分かった。琵琶湖はとても貴重な水資源としてもその重要性が一層高まっていて、その豊かな水環境を保全しながら、水資源として将来にわたって有効な利用を図ると、「ワイズユース」が求められている。

そのため、滋賀県は琵琶湖の水環境を守るための市民による地域の環境保全活動などがさかんにいろいろと展開されているということも知った。その取り組みのなかに滋賀県内の全ての小学五年生が学習船「うみのこ」に乗船・航海し、宿泊をとまなう教育を実施していて、琵琶湖の環境を主なテーマとして「びわ湖環境学習」を行っているということも知った。小さい時から「水」に対する意識が僕達とは違うのかもしれない。

僕は今回、水について調べたことで普段何も考えず、流しっぱなしにしている時があるので絶対にやめようと思う。

今の僕にできることは小さなことかもしれないけれど水の大切さに気づいたのだから、利用法や今後のことを少しでも考え努力しなければいけないと心の底から思いました。